

株主通信

第117期

2017.4.1 ~ 2018.3.31

証券コード 7105



Logisnext

三菱ロジスネクスト株式会社

伝統ある4社の多様性を強みとしながらグループの融合を進め 世界トップクラスの総合物流機器メーカーを目指してまいります。

2017年10月に新会社「三菱ロジスネクスト(株)」としてスタートした当社は、グループ一体となって中期経営計画「Perfect Integration 2020」を推進しつつ統合シナジーの早期創出と刈り取りにより事業基盤を一層強化し「世界トップクラスの総合物流機器メーカー」を目指してまいります。



代表取締役社長
御子神 隆

当期の市況と業績の総括

株 主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

すでに中間株主通信などでお伝えしました通り、当社グループは2017年10月1日付でユニキャリア株式会社(以下ユニキャリア)との経営統合を実施し、三菱ロジスネクスト(株)として新たなスタートを切りました。

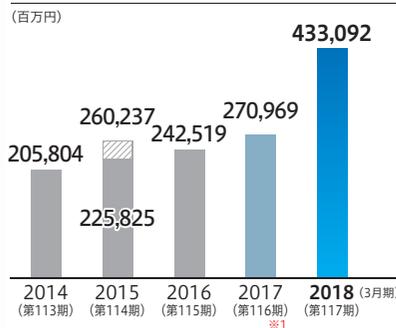
新会社の発足初年度となる2017年度(2018年3月期)は、国内事業では堅調な需要を背景にフォークリフトの販売台数が伸びました。また海外事業においても、米州、欧州、アジア、中国の全域で販売を伸ばすことができました。これらに加えてユニキャリアの連結寄与により、グループ連結売上高は4,330億9千2百万円(前連結会計年度比59.8%増加)の大幅増収となりました。

一方、利益面については、ユニキャリアの完全子会社化に伴うのれん償却等の影響があり、営業利益は92億8千万円(同11.7%減少)、経常利益は84億2千5百万円(同6.2%減少)、親会社株主に帰属する当期純利益は29億4千1百万円(同19.1%減少)となりました。なお、こののれん償却などの影響を除けば、営業利益は191億3千2百万円、経常利益は182億7千7百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は118億7千8百万円となっております。

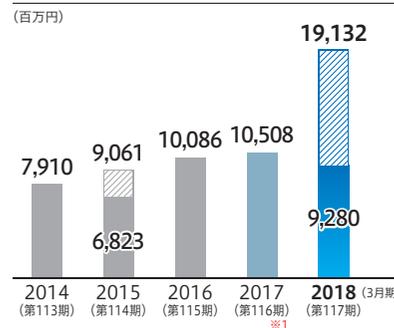
経営基盤強化の取組み状況

新 会社三菱ロジスネクストのスタート以降も、当社グループが2016年12月に発表した中期経営計画「Perfect Integration 2020」を継承し、これに沿った成長戦略を推進しています。「マルチブランドとグローバル※2戦略

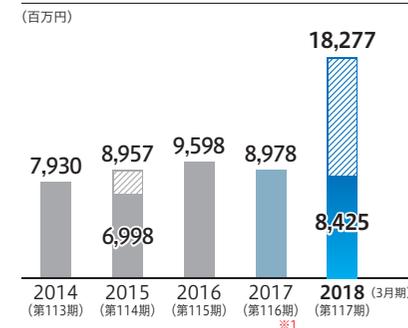
売上高



営業利益



経常利益



■ 第113～第115期はニチユ三菱フォークリフトのデータを掲載しています。 ▨ 海外連結子会社の決算期変更に伴う増加分(1～3月)。 ▨ のれん償却額。

※1 2017年1月1日付でユニキャリアを完全子会社化したことに伴い、2017年3月期(第116期)1月～3月は、ニチユ三菱フォークリフトとユニキャリアを連結した数値を掲載しています。

経営基盤構築の進捗

本社機能集約

川崎にあった旧ユニキャリアの本社機能も、**京都に集約**し、グローバル/マルチブランド経営を推進。



人事制度一本化

人事制度を統一。**3つの理念**を柱に、柔軟に組織運営・人材配置ができ、人事評価も公平・客観的に行えるようになった。



開発体制強化

省人化、自動化技術といった成長分野へのリソース創出。**日米欧3極にデザインセンターを設置**し、お客様のニーズにマッチした製品開発と開発の効率化を推進。



システム統合

国内の**会計、設計システムは統合完了**。2020年度を目処に「販売」「生産」「調達」などの国内業務システムの統合を完了し、グローバルの統合を目指す。



調達体制確立

取引先の集約化を推進し、**バイイングパワーが向上**。部材の共通化と併せて推進し、調達費低減などのシナジー効果を実現。



ブランド整理

マルチブランド戦略に基づき、各地域のお客様に最適なブランドをグローバルに展開。



シナジーの最大化と
お客様のあらゆるニーズにお応えできる企業体質へ

による成長」を基本方針に定めた本計画では、経営統合後の最初の2年間で「融合・構築フェーズ」と位置づけています。

今回の経営統合により、当社グループは規模の面では世界のフォークリフト業界において第3位の企業グループとなりました。しかしながら自動化・無人化・省人化へのニーズ拡大や、AI・IoT技術の進展など、当社を取り巻く外部環境の急速な変化に対応し、総合物流機器メーカーとしてさらに大きく成長していくためには、グループ各社・各部門が真の意味で1つに融合する必要があります。

こうした考えに基づいて、2017年10月の経営統合にあたっては、本社機能の集約や人事制度の一本化、システム統合など、新会社としての組織融合に向け周到に事前準備を進めました。さらに経営統合以降も、各部門においてグループシナジーの創出に向けた様々な取組みが着実に進捗しています。たとえば購買・調達などに関しては、取引先の集約化やバイイングパワーの向上によってすでにシナジー効果が顕在化してきています。また研究開発に関しても、グループ間での共同開発など一定の効果が表れつつあります。今後も各部門で期待されるシナジーの実現に努め、グループ全体でこれからの成長を支える経営基盤の強化に注力してまいります。

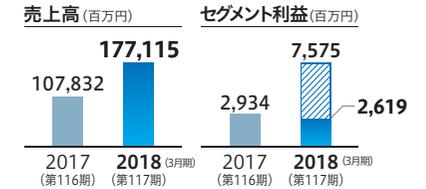
※2 地球規模での展開を目指しながらも、地域独自の要求に合わせた製品やサービスを提供していくこと。

2018年度の取組みと見通し

世 界経済は成熟国、新興国ともに好調な経済環境にありますが、米中貿易摩擦などの海外の政治・経済動向の不確実性、金融資本市場の変動による影響、一部地域における地政学的リスクの高まりなど、景気の先行きは不透明な状況が続いています。また国内経済においては雇用・所得環境の改善が続く中、各種政策の効果もあり緩やかな景気

事業別業績概況

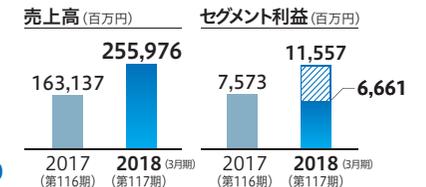
国内事業



国内事業は、堅調な需要を背景に、国内フォークリフト販売台数を伸長させたこと及びユニキャリア連結の寄与により、売上高は1,771億1千5百万円(前連結会計年度比64.3%増加)となりました。セグメント利益につきましても、ユニキャリア連結が寄与しましたが、のれん償却等の負担(49億5千5百万円)により、26億1千9百万円(同10.7%減少)となりました。

なお、のれん償却等の影響を除くと、セグメント利益は75億7千5百万円となりました。

海外事業



海外事業は、米州、欧州、アジア、中国の全域で販売を伸ばしたこと及びユニキャリア連結の寄与により、売上高は2,559億7千6百万円(前連結会計年度比56.9%増加)となりました。セグメント利益につきましても、ユニキャリア連結が寄与しましたが、のれん償却等の負担(48億9千6百万円)により、66億6千1百万円(同12.0%減少)となりました。

なお、のれん償却等の影響を除くと、セグメント利益は115億5千7百万円となりました。

株主の皆様へのメッセージ

当 社はその期の収益状況に対応し、株主の皆様への配当の充実と企業基盤確立のための内部留保とのバランスに配慮した利益配分を行うことを基本としております。この方針に則り、2017年度の期末配当金については、1株当たり11円といたします。

私たち三菱ロジスネクストは、源流を辿れば伝統ある物流機器4社の経営統合によって誕生した企業であり※2、それぞれの企業が独自に技術開発や販売網の開拓を行ってまいりました。製品分野もエンジン車、バッテリー車などのフォークリフトからAGV(無人搬送車)・AGF(無人フォークリフト)、自動倉庫、倉庫管理システムなど物流システム、港湾・建設機械まで幅広い商品ラインアップを展開しています。そうした多様性を大きな強みとしながら、私たちは真のグループ一体化に向けて融合を進め、世界のお客様にとってより便利で使いやすく、人や環境にも優しい物流機器やシステム、ソリューションの提供に努めてまいります。そして中期経営計画の目標である「2020年度に売上高4,600億円・営業利益率7%(のれん償却前)」の達成に向けて邁進してまいります。

株主の皆様には、今後も温かいご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

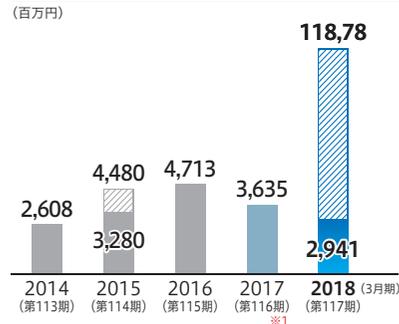
※2 統合前の旧4社のあゆみについては、P4をご参照ください。

拡大傾向の継続が期待される一方、政治情勢の不安定化や海外経済の不確実性に留意する必要があります。加えて、鋼材をはじめとする原材料価格の上昇が顕著であり、資材調達コストへの影響も懸念されています。

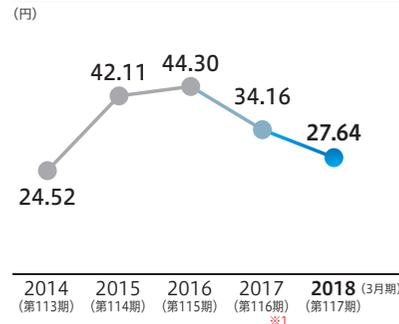
こうした状況の中、当社グループは2018年度(2019年3月期)も引き続き中期経営計画「Perfect Integration 2020」に沿った取組みを推進してまいります。eコマース市場(電子商取引)の拡大、倉庫や工場などの人手不足などを背景に物流機器の世界市場は予想以上に拡大傾向を見せていますが、市場拡大の方向性は地域や国によって様々であり、対応策も多様になります。そのため限りある資源をどこに集中するか、いわゆる「選択と集中」が重要になります。力を結集させるべき地域・分野を定め、ターゲットとする地域・市場で一気呵成に進めていきたいと考えています。

2018年度の連結業績については、売上高4,350億円(前連結会計年度比0.4%増)、営業利益125億円(同34.7%増)、経常利益110億円(同30.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益60億円(同104.0%増)を見込んでおります。

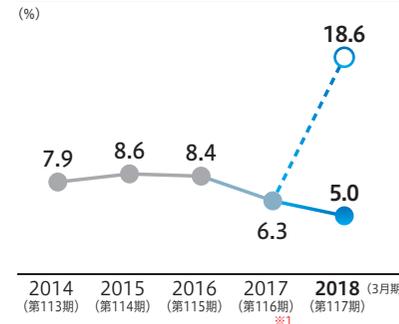
親会社株主に帰属する当期純利益



1株当たり当期純利益



自己資本当期純利益率



■ 第113～第115期はニチユ三菱フォークリフトのデータを掲載しています。▨ 海外連結子会社の決算期変更に伴う増加分(1～3月)。▨ のれん償却額。--○ のれん償却前。

※1 2017年1月1日付でユニキャリアを完全子会社化したことに伴い、2017年3月期(第116期)1月～3月は、ニチユ三菱フォークリフトとユニキャリアを連結した数値を掲載しています。

日本、そして世界の物流業界を支え続けてきた各社の強みを結集。

三菱ロジスネクストの前身となる物流機器メーカー4社が、それぞれの歩みの中で独自に開発・開拓してきた多様な技術や販売網。

経営統合し、新会社となった今、それらを融合することで世界各地のお客様ニーズに応えることのできる、より高いレベルの物流ソリューションの提供を目指してまいります。

日本輸送機

日本市場で確固たる地位を確立

国内で初めてバッテリーフォークリフトを開発したパイオニアメーカーとして、主に国内とアジア圏において中小型のバッテリーフォークリフトや物流システムを中心に事業を展開してきました。また、業界に先駆けて環境に配慮した保管・搬送技術の開発を行い、環境改善への貢献に努めてきました。

三菱重工業 フォークリフト 事業部門

欧州・北米市場を中心に展開

小型から大型までのエンジンフォークリフトに強みを持ち、三菱ブランドだけでなくキャタピラーブランドの車両の生産・販売も手がけ、北米や欧州など海外市場を中心に事業を展開してきました。さらに、ディーゼルエンジンや変速機などの主要コンポーネントを独自開発するなど、高い技術力で幅広いお客様のニーズに応えてきました。

TCM (東洋運搬機)

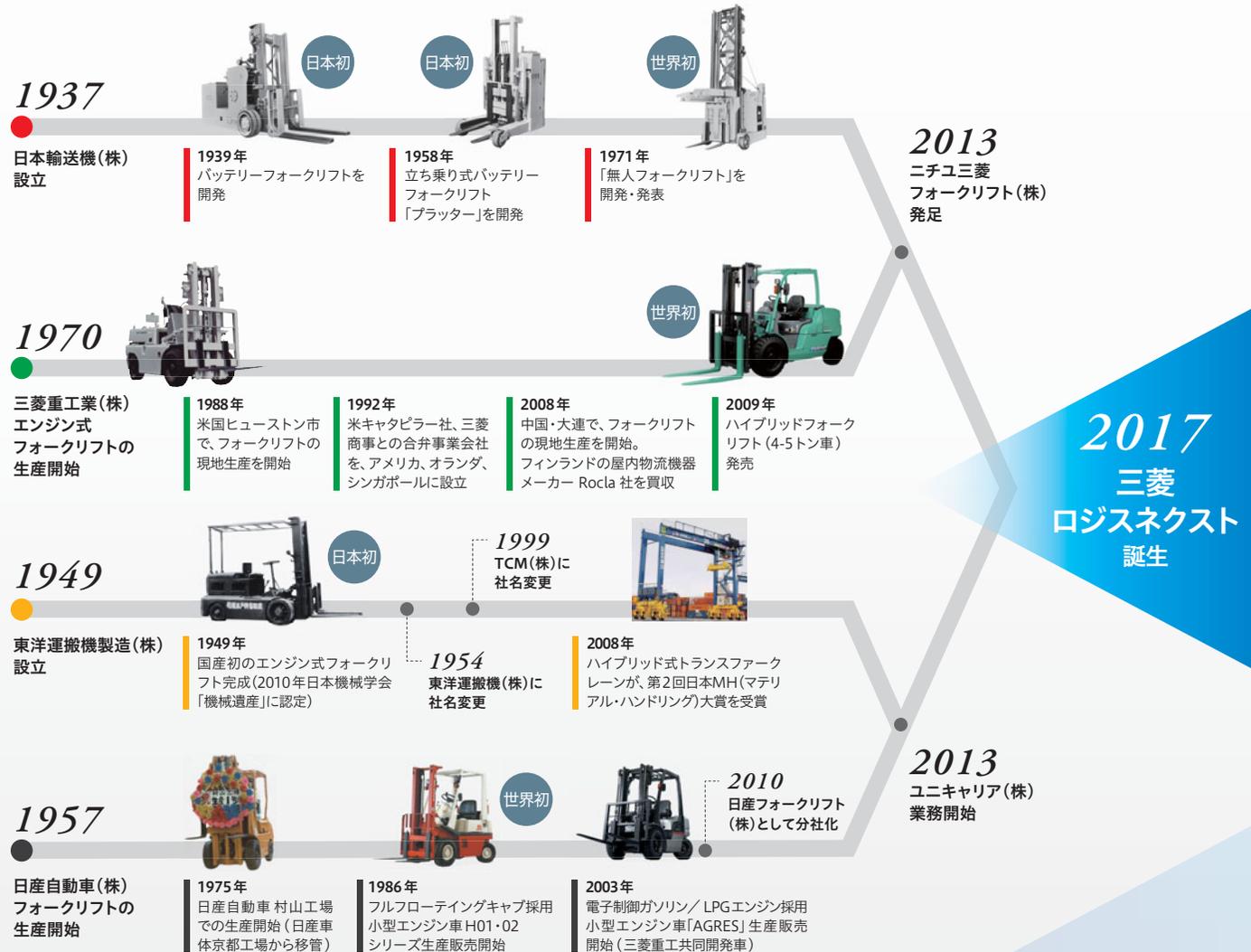
大型・特殊荷役車両に強み

1949年に国産初のエンジンフォークリフトを製造した、業界内のパイオニア的存在。当時の基本的な機構や装置などの機械技術は、現在のフォークリフトにも広く使われています。エンジンフォークリフト(特に積載量10トン超の大型フォークリフト)の他、ショベルローダー、スキッドステアローダーなどのバケット式車両や、港湾・製鉄所・造船所などで使われる特殊運搬車両などが強みです。

日産 フォークリフト

自動車技術を活かした製品開発、エンジンの自社開発に強み

1957年に日産自動車の産業機械事業部として創立後、2010年に日産フォークリフトとして分社。自動車技術を活かした技術開発に強みがあり、車両だけでなく、エンジンユニットの外販も行っていました。後のユニキャリア、そして三菱ロジスネクストとなった現在も、グループ会社のGCT^{※3}で製造・販売を行っています。

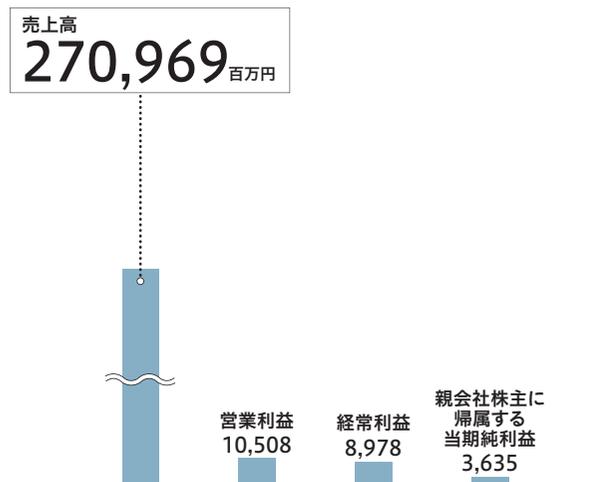


※3 グローバルコンポーネントテクノロジー社

主要連結財務指標

連結損益計算書 (百万円)

前期 (2016年4月1日～2017年3月31日)



当期 (2017年4月1日～2018年3月31日)

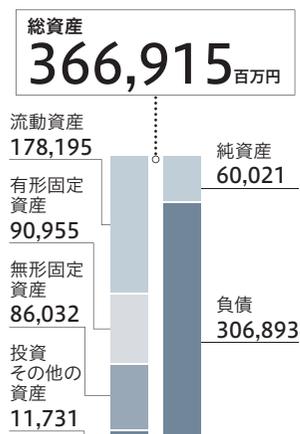


POINT

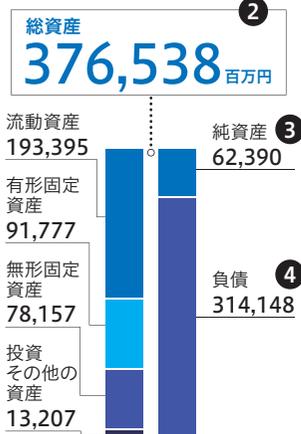
- ① 営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益のれん償却等の負担が影響し営業利益は1,228百万円減少、経常利益は553百万円減少、親会社に帰属する当期純利益は694百万円減少となりました。

連結貸借対照表 (百万円)

前期末 (2017年3月31日)



当期末 (2018年3月31日)

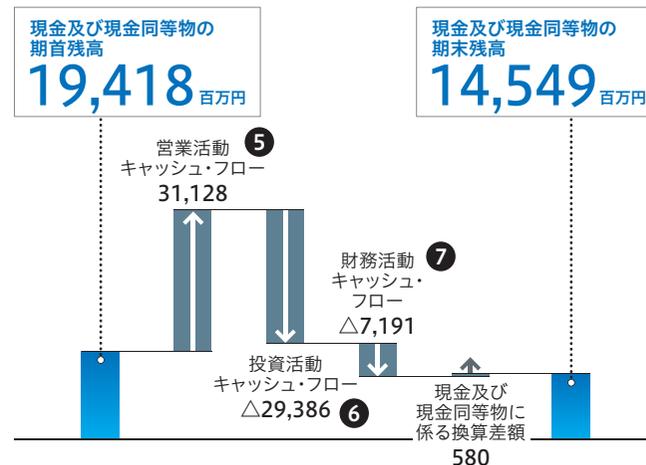


POINT

- ② 総資産 短期貸付金の増加が主な要因となり、前年比で増加しました。
- ③ 純資産 利益剰余金の増加、その他有価証券評価差額金の増加及び為替換算調整勘定の減少により、前年比で増加しました。
- ④ 負債 買掛金の増加が主な要因となり、前年比で増加しました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)

当期 (2017年4月1日～2018年3月31日)



POINT

- ⑤ 営業活動キャッシュ・フロー 減価償却費及びのれん償却額が増加した一方、たな卸資産及び法人税等の支払額が増加したことにより、前年比で減少しました。
- ⑥ 投資活動キャッシュ・フロー 前連結会計年度において連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出があったことにより、前年比で減少しました。
- ⑦ 財務活動キャッシュ・フロー 前連結会計年度に借り入れた長期借入金の返済により資金が減少した一方、短期借入金の借入による資金が増加したことにより、7,191百万円の支出(前年同期比68,245百万円増加)となりました。

会社情報

会社概要 (2018年3月31日現在)

社名	三菱ロジスネクスト株式会社 (Mitsubishi Logisnext Co., Ltd.)
創立年月日	昭和12年8月4日
資本金	4,890百万円
国内主要事業所	
本社・京都工場	〒617-8585 京都府長岡京市東神足2-1-1 TEL:075-951-7171 FAX:075-955-3797
滋賀工場	〒523-0013 滋賀県近江八幡市長光寺町578 TEL:0748-37-6700 FAX:0748-37-3259
安土工場	〒521-1334 滋賀県近江八幡市安土町西老蘇8-1 TEL:0748-46-5511 FAX:0748-46-6854
新川崎事業所	〒212-0031 神奈川県川崎市幸区新小倉1-2 TEL:044-330-9000
オンサイト 研修センター	〒345-0023 埼玉県北葛飾郡杉戸町大字本郷576 TEL:0480-37-2108 FAX:0480-33-8034

取締役及び監査役 (2018年6月28日現在)

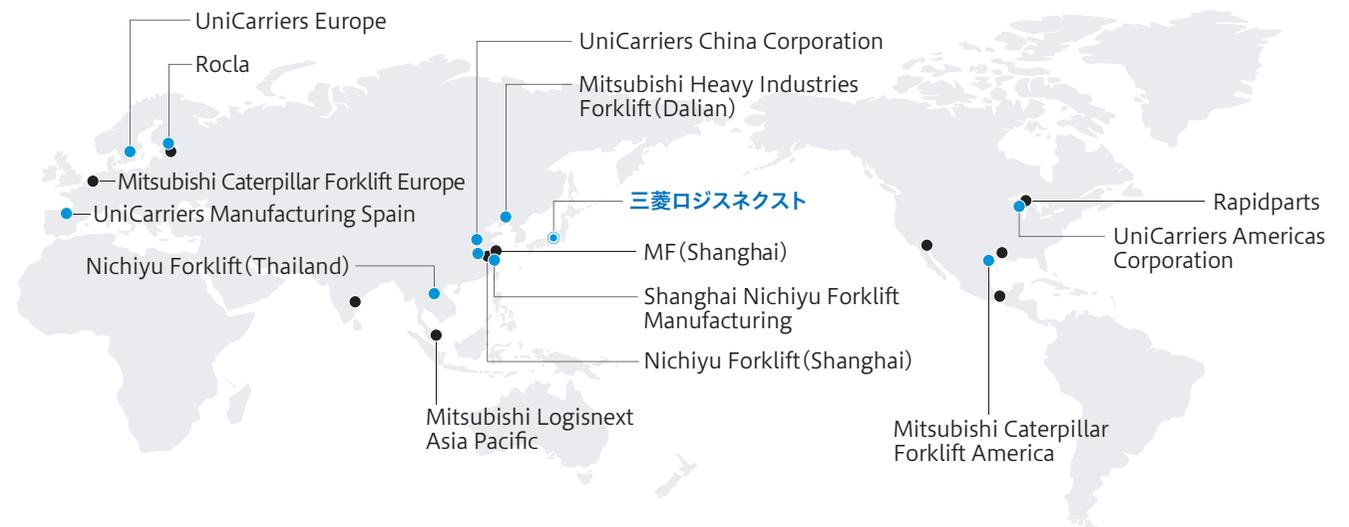
取締役会長	二ノ宮 秀明 (三菱重工フォークリフト&エンジン・ターボ ホールディングス(株) 取締役)
代表取締役社長	御子神 隆 (三菱重工フォークリフト&エンジン・ターボ ホールディングス(株) 取締役)
取締役	各務 真規
取締役	藤田 伸二
取締役	山本 博章 (三菱重工(株) グループ戦略推進室 戦略企画部長)
社外取締役	加藤 孝幸
社外取締役	大河内 健
常勤監査役	前嶋 弘
常勤監査役	小西 憲雄
社外監査役	倉垣 雅英 ((株)ジーエス・ユアサコーポレーション 常務取締役)
社外監査役	福岡 靖之 (大日本塗料(株) 常勤監査役)
社外監査役	斉藤 卓美

会長、社長及び役付執行役員 (2018年6月28日現在)

会長	二ノ宮 秀明
社長 CEO	御子神 隆
副社長執行役員	各務 真規
常務執行役員	新聞 洋之
上席執行役員	新家 雅隆
上席執行役員	間野 裕一
上席執行役員	大野 雅宏
上席執行役員	Ken Barina
上席執行役員	市原 信二
上席執行役員	渡邊 博一
上席執行役員	岩崎 孝宏
上席執行役員	玉光 正和
上席執行役員	小津 泰史
上席執行役員	藤田 伸二

ネットワーク (2018年3月31日現在)

● 生産拠点 ● 主要販売拠点



株式の状況

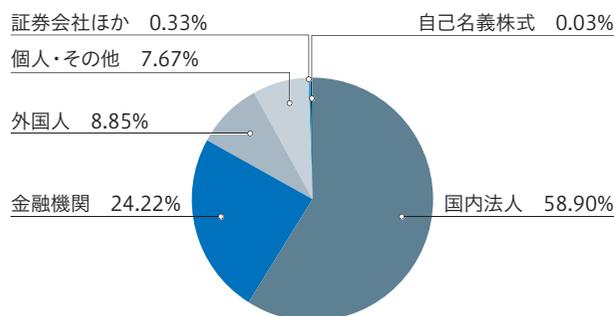
発行可能株式総数	普通株式	392,725,256株
	A種種類株式	32,274,744株
発行済株式総数	普通株式	76,611,269株
	A種種類株式	32,274,744株
株主数	普通株式	7,328名
	A種種類株式	2名

大株主(普通株式)

株主名	持株数(千株)	持株比率
三菱重工フォークリフト&エンジン・ターボホールディングス株式会社	39,033	50.95%
株式会社GSユアサ	4,701	6.14%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	3,824	4.99%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	3,803	4.96%
明治安田生命保険相互会社	2,765	3.61%
GOVERNMENT OF NORWAY	2,068	2.70%
東京海上日動火災保険株式会社	1,575	2.06%
株式会社三菱東京UFJ銀行*	1,363	1.78%
株式会社京都銀行	1,301	1.70%
株式会社滋賀銀行	941	1.23%

* 2018年4月1日付で、株式会社三菱東京UFJ銀行は、株式会社三菱UFJ銀行に商号を変更しております。

所有者別株式分布状況(普通株式)



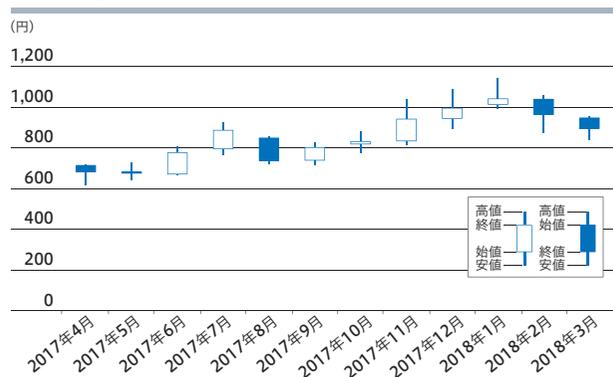
株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-782-031(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.pronexus.co.jp/koukoku/7105/7105.html (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三井住友信託銀行にお問合せください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株価の推移



「三菱ロジスネクスト」発足記念株主優待の実施について

当社は、新会社発足を記念して、記念優待を実施いたしました。

対象となる株主様

2018年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式100株(1単元)以上を保有する株主様。

記念株主優待の内容

QUOカード2,000円分を決議通知書に同封し、贈呈いたします。

その他

本記念株主優待の詳細は、当社HPにて2018年2月8日付ご案内の「『三菱ロジスネクスト』発足記念株主優待の実施に関するお知らせ」をご覧ください。



企業サイト TOP
<https://www.logisnext.com/>



株主・投資家情報
<https://www.logisnext.com/investor/>

三菱ロジスネクスト株式会社

〒617-8585 京都府長岡京市東神足2丁目1番1号
TEL 075-951-7171
FAX 075-955-3797

